

平成 2 7 年度 事 業 報 告 書

自 平成 2 7 年 4 月 1 日

至 平成 2 8 年 3 月 3 1 日

公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成27年度 事業報告書

1. 事業計画名	第Ⅰ事業 大学間連携事業				
2. 事業名	単位互換（産学連携科目）				
3. 事業趣旨	加盟大学の正規科目と企業との提携講座を単位互換科目として提供し、学生が大学の枠を超えて受講・単位取得できる、2008年4月より開始した制度である。				
4. 事業内容・実績	【実施内容】 本年度は、読売新聞社提携講座として明星大学（前期）、中央大学（後期）として実施（それぞれ15回講義）した。 前期：明星大学 「現役記者が教える英字新聞のツボ」 受講者数：35名（明星大学、実践女子大学、帝京大学） 講座概略（全15回） ◆語彙や語法などの特徴について基本的事項を学ぶ◆どのように段落が組み立てられるのかを知る◆事故や事件、災害などのストレートニュースを読む◆発生から裁判まで一連の流れを知り、その表現を学ぶ◆くらしに密着した英語表現を学ぶ◆税制や財政などから将来を考える◆ニュース記事のプレゼンテーションに向け準備◆プレゼンテーション実施◆世界の潮流を象徴する事件などを取り上げる◆日本と世界の関係を考える記事を取り上げる◆与野党の違いや政治家の日常活動を知る◆立法過程を知り、法律の機能を学ぶ◆政権の司令塔としての機能を知り、政治取材について知る◆講座全体の内容について補足説明し、今後の学習についてアドバイスする◆期末試験 後期：中央大学 「現代社会と新聞」 受講者数：61名（中央大学、明星大学、実践女子大学、帝京大学） 講座概略（全15回） ◆オリエンテーション◆ジャーナリズム総論◆安倍政権下の政治報道◆経済報道の現状と課題◆新聞社が取り組むネット事業◆国際報道から考える◆科学報道について◆「くらし」面の狙いと魅力◆わかりやすい医療記事とは◆社会保障制度の問題点を考える◆新聞の言論機能、社説について◆人口減少と地方自治◆事件・事故報道、調査報道のいま◆ディスカッションー現代社会と新聞について考える◆まとめ				
5. 評価	・今年度からWEBシステムの休止により大学提供科目を停止し、NHK提携講座（東京工科大学）も終了したため、単位互換としての受講者は大幅に減少した。 ・読売新聞の提携講座の受講者についても、前年度の128名から96名と減少となった。 ・アンケート結果によると、両講座ともにおおむね好評である。 ・受講生からは、新聞社内部の知見、現場記者の見解などを知る機会として非常に関心を持たれている。				
6. 執行体制	大学部会、参加大学担当者、事務局				
7. 事業収支 （単位：円）		計画	実績	差異	備考
	収入	400,000	400,000	0	
	支出	1,361,000	1,330,741	△ 30,259	
	収支	△ 961,000	△ 930,741	30,259	

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成27年度 事業報告書

1. 事業計画名	第Ⅰ事業 大学間連携事業				
2. 事業名	多摩未来奨学金				
3. 事業趣旨	多摩未来奨学金は、加盟機関や多摩地域の企業・団体等からの寄附金を原資とし、加盟大学・短期大学の学生を対象とした給付型の奨学金制度である。 ネットワーク多摩の加盟大学・短期大学で学ぶ学生を、産官学（職員、教員、社員等）が協働し、多摩地域の活性化を目的とした活動等（多摩未来奨学生プロジェクト）を通して育成することを目的とする。また、資金を拠出していただいた企業・団体等にとってもメリットが得られ、大学にとっても有為な人材を社会に送り出す手立てとなる制度となることを目指す。				
4. 事業内容・実績	【平成27年度多摩未来奨学金実績】 ◆学内選考 平成27年4月～10月 ◆応募期間 推薦：平成27年10月1日（木）～10月19日（月） 公募：平成27年10月20日（火）～10月30日（金） ◆応募者 34名（公募 6名 推薦 28名（14大学：亜細亜、桜美林、嘉悦、恵泉女学園、実践女子、創価、玉川、多摩、拓殖、中央、帝京、デジタルハリウッド、法政、明星） ◆書類選考 平成27年11月2日（月）～11月17日（火） ◆最終選考 平成27年11月21日（土） Winプラザ多摩センター ◆結果 25名採用（13大学：亜細亜、桜美林、嘉悦、恵泉女学園、実践女子、創価、拓殖、多摩、中央、帝京、デジタルハリウッド、法政、明星） ◆交付式 平成27年12月6日（日） 創価大学（ディスカバリーホール） ◆寄附金 寄附企業・団体数：44 寄附金額： 755万円（2016.3.31） ◆包括協定 26大学（亜細亜、亜細亜短期、桜美林、大妻女子、嘉悦、恵泉女学園、白梅学園、白梅学園短期、実践女子、実践女子短期、創価、創価女子短期、玉川、多摩、拓殖、中央、帝京、帝京短期、デジタルハリウッド、電気通信、東京家政学院、東京工科、日本獣医生命科学、法政、明星、和光） 【平成26年度 2期生多摩未来奨学生プロジェクト】 ◆集合研修 平成27年1月18日（日） たましん事業支援センター（Winプラザ） ◆中間発表会 平成27年8月28日（金） 明星大学（28号館プレゼンルーム） ◆提言発表会 平成27年12月6日（日） 創価大学（ディスカバリーホール） ◆多摩未来奨学生による企業・施設訪問、グループワーク、インターンシップを実施 【平成27年度 3期生多摩未来奨学生プロジェクト】 ◆集合研修 平成28年2月6日（土） たましん事業支援センター（Winプラザ）				
5. 評価	今年度3期生の募集については、14大学から34名の学生の応募があり、うち6名は公募であり、25名を採用した。公募の理由は学長推薦枠3名を超えたため、あるいは推薦書類が整わなかったことが大きな要因であった。円滑な書類審査、コーディネーター面接の方法、追加面接の手順、コーディネーターの交替については改善すべき課題が見られた。 多摩未来奨学金制度3年目として寄附協賛企業と寄附金額の増加については、今後十二分な検討が必要とされる。 また、平成26年度多摩未来奨学生プロジェクトは4月から12月まで3グループによる活動が行われ、12月の最終提言発表も無事に終了し、参加者から好評を得ることができた。				
6. 執行体制	多摩未来奨学金審査委員会、多摩未来奨学生プロジェクトコーディネーター、多摩未来奨学金運営委員会、事務局				
7. 事業収支 （単位：円）		計画	実績	差額	備考
	収入	13,000,000	9,851,766	△ 3,148,234	奨学金返礼分 600,000含む
	支出	12,145,000	5,812,256	△ 6,332,744	
	合計	855,000	4,039,510	3,184,510	奨学金給付額を分割支給するため、3,750,000は次年度繰越金とする

多摩未来奨学金 実績報告

平成 2 5 年度

	前年度繰越額	収入	支出	次年度繰越額
補助金	0	1, 500, 000	917, 854	582, 146
寄附金	0	6, 350, 000	5, 700, 000	650, 000
合計	0	7, 850, 000	6, 617, 854	1, 232, 146

奨学金交付額 1 9 名 5, 700, 000円

寄附協賛企業 2 9 社 1 団体 1 個人 6, 350, 000円

平成 2 6 年度

	前年度繰越額	収入	支出	次年度繰越額
補助金	582, 146	1, 500, 000	2, 082, 146	0
寄附金	650, 000	8, 250, 000	6, 676, 633	2, 223, 367
合計	1, 232, 146	9, 750, 000	8, 758, 779	2, 223, 367

奨学金交付額 2 2 名 6, 600, 000円

寄附協賛企業 5 4 社 1 団体 8, 250, 000円

平成 2 7 年度

	前年度繰越額	収入	支出	次年度繰越額
補助金	0	1, 500, 000	1, 500, 000	0
寄附金	2, 223, 367	8, 150, 000	4, 312, 256	6, 061, 111
合計	2, 223, 367	9, 650, 000	5, 812, 256	6, 061, 111

※奨学金分割支給のため、3, 750, 000円は次年度繰越へ

※寄附金収入には、2 期生辞退者 2 名の奨学金返還金600, 000円含む

奨学金交付額 2 5 名 3, 750, 000円

寄附協賛企業 4 3 社 1 団体 7, 550, 000円

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成27年度 事業報告書

1. 事業計画名	第Ⅰ事業 大学間連携事業				
2. 事業名	就職支援事業				
3. 事業趣旨	大学の未内定卒業生が社会問題となる中、地域中小企業における大学卒業生の採用は困難な状況にある。この就職ミスマッチ問題を解消するために、就職説明会の実施、インターンシップ支援やワークプレイズメントの推進を行う。				
4. 事業内容・実績	◆インターンシップ支援 ・亜細亜大学から委託を受け、インターンシップ講座の実施。 全15回、約100名の学生が受講 19の受入企業に対し、延べ95名のインターンシップを実施。 最終成果発表会を10月28日に実施した。 ・嘉悦大学から委託を受け、企業研究・企業実習講座の実施。 全30回、8名が受講 社会へ出ることの意義を基軸とした授業及びインターンシップの実施 ◆ワークプレイズメントの実施 学生情報センターと連携してワークプレイズメントの実施。 ◆就職マッチングサイト 地域中小企業・小規模事業者人材確保定着支援事業の受託先である、 (株)さんぼうとの連携により就職マッチングサイト「成長企業ナビ」への事業協力。 ◆就業力アップ支援の実施 (株)立飛ホールディングスから受託した、立川駅周辺の実証的調査業務を学生がアンケート調査から分析、ワークショップの開催、報告書作成までを行うことにより就業力を養う。 ◆就職説明会の周知 (公財)東京しごと財団開催の就職説明会への後援の実施 5月14日 立川グランドホテル 7月 9日 京王プラザホテル多摩 8月 1日 東京仕事センター多摩 10月 6日 京王プラザホテル八王子 11月30日 立川グランドホテル 2月 3日 京王プラザホテル八王子				
5. 評価	2年間実施していた就職マッチングサイトを閉鎖したことにより、各企業からの就職情報を学生に周知する場がなくなり、今後就職支援のやり方について検討の必要がある。				
6. 執行体制	(特非) 日本ITイノベーション協会、(株)ナジック・アイ・サポート、事務局				
7. 事業収支 (単位：円)		計画	実績	差異	備考
	収入	10,000,000	11,253,945	1,253,945	
	支出	9,892,000	10,911,585	1,019,585	
	収支	108,000	342,360	234,360	

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成27年度 事業報告書

1. 事業計画名	第Ⅰ事業 大学間連携事業				
2. 事業名	学生生活支援事業				
3. 事業趣旨	新入生・在校生を対象とした「一人暮らしの学生のトータルケア」を活動拠点AGORA立川にて開催する。				
4. 事業内容・実績	一人暮らしのトータルケア事業 ◆事業内容 - 住居情報の提供 - 加盟行政が提供する地域生活情報 - 学生による学校情報やアルバイトのアドバイス ◆実績 ①住居情報の提供 決定件数・・・9大学113件（前年比＋10件） ②地域生活情報、学校やアルバイト情報の提供 一人暮らし学内相談会・・・9大学延べ225回 ③地域住民と留学生の交流イベント（立川青年会議所主催） ・地元のお祭りでの見越し担ぎ ・地元小学生との交流 ・地元企業の見学会 ・地元中高生との交流キャンプ				
5. 評価	各大学内の相談会への来場者数は、実践女子大学では微増だったものの、全体的には微減傾向にある。学生の住居探しについては、WEBに頼る傾向がさらに強まったと思われるものの、決定数が増加したため本事業は継続すべきものとする。 また、新たな試みとして、立川青年会議所が主催する留学生と地元住民の交流イベントを紹介したところ、複数の留学生が参加し、実績を作ることができた。 他にも、地域と学生の繋ぐ情報は継続して紹介することとしたい。				
6. 執行体制	㈱学生情報センター、事務局				
7. 事業収支 (単位：円)		計画	実績	差異	備考
	収入	0	0	0	別途 学生情報センターより寄附金636千円あり
	支出	120,000	109,650	△ 10,350	
	収支	△ 120,000	△ 109,650	10,350	

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成27年度 事業報告書

1. 事業計画名	第Ⅰ事業 大学間連携事業				
2. 事業名	多摩の学生まちづくりコンペティション2015				
3. 事業趣旨	地域コミュニティや企業、商店街など多摩地域が元気で、新たなあり方をもとめるために、いまの魅力と課題をフィールドワークによって得たデータを分析して提示する学生のまちづくりコンペ。その研究成果を行政や事業者らの前で発表して優秀な提案に賞を贈る。				
4. 事業内容・実績	◆参加資格 教員の指導の下で活動する学生の個人またはグループ。 ・申込：13団体（8大学）内2団体を取り下げ、11団体（7大学）が正式にエントリーした。 ・11団体の応募テーマ：観光・食育・自然、マーケティング・地域ブランディング・商品開発・商店街。 ◆実施概要 発表の持ち時間は10分（タイムオーバーは2点減点）、質疑応答5分、採点は、予選、本選とも50点満点。 ◆予選 11月14日、実践女子大学で、テーマ別に2グループに分けて、それぞれ9人（行政4人、企業3人、大学教授2人）の審査委員が審査した。その結果、7団体が本選に進んだ。発表者を含む122人が見学者した。 ◆リハーサル会 11月28日、立川市のたましんWinセンターで行った。予選審査委員のうち5人が出席して、参加した5団体に内容の充実度と明晰度を高めるアドバイスをした。 ◆本選 12月12日、7団体の出場で、立川市のたましんRISURUホールで行った。審査委員は、自治体、企業役員ら9人。発表者28人を含む110人が見学した。 ・最優秀賞 東京工業高等専門学校・松林勝志教授研究室 「PULL DOG～視覚障がい者用導きシステム」 ・優秀賞 杏林大学久野新准教授ゼミ 「『宿場町八王子』再生に向けた産官学連携プロジェクト ～超短期滞在型外国人団体観光客に対する取り組み」 東京経済大学山本聡准教授ゼミ活性化班 「地域資源を活かしたブランド形成とマーケティング ～地域活性化を目指して」 ・奨励賞 創価大学天谷永教授ゼミ 「SNSで多摩に元気を！ 多摩Tubeの挑戦 ～若者に多摩の魅力を伝え、地域の元気をつなげる」 工学院大学都市デザイン系研究室野澤康教授研究室 「文化を繋ぐはなまちづくり ～八王子花街中町の6者連携によるまちづくり」 創価女子短期大学水元昇教授ゼミ 「食育推進プロジェクト ～1杯のみそ汁で変わる学生の朝（みそ汁健康プロジェクト）」 東京経済大学尾崎寛直准教授ゼミ 「障害者が活躍するまちづくり ～障害者のノーマライゼーションを実現する仕組みづくり」 ・会場は、各会場所所有の実践女子大学、立川市にご協力していただいた。				
5. 評価	エントリー数は、前年の16団体（9大学）から11団体（7大学）と減少しており、次年度は告知方法の検討が課題となった。 発表内容は前年よりもレベルの高いプレゼンテーションだった。一地域の課題をフィールドワークによって問題点を掘り下げて新たな展開を試みる実践が報告された。その報告内容から、市民をはじめ事業者らと話し合っている学生の姿が感じとれて教育的効果がでていた。 今年度は、結果として八王子をフィールドワークしている団体が多かったことから、次年度以降、地域的な偏りがないような展開も考えたい。				
6. 執行体制	後援：東京市町村自治調査会、協力：日本経済新聞社多摩支局、事務局				
7. 事業収支 （単位：円）		計画	実績	差異	備考
	収入	70,000	44,000	△ 26,000	
	支出	570,000	568,584	△ 1,416	
	収支	△ 500,000	△ 524,584	△ 24,584	

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成27年度 事業報告書

1. 事業計画名	第Ⅰ事業 大学間連携事業				
2. 事業名	電気通信大学企業オムニバス講座				
3. 事業趣旨	喫緊の課題である大学教育改革の一環としてPBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）や学生の教室外学修インターンシップなどにより、激変する社会情勢、産業構造に対処する知的構想力並びに時代を切り拓く人材の育成が求められている。 これらに対する施策のひとつとして大学生に企業などの技術製造部門、宣伝広告、金融などの経営者、責任者などに大学で講義いただき、社会人像、企業での成功事例・失敗事例などを学修し、大企業はもとより、地域中小企業などへの企業理解を深め、社会、企業とのミスマッチを解消する。				
4. 事業内容・実績	◆電気通信大学 「企業オムニバス講座」全15回の実施。 1. ガイダンス ネットワーク多摩 中村 裕 2. 丸栄コンクリート工業株式会社 常務取締役 松下 敏郎 3. ProFuture株式会社 代表取締役社長 寺澤 康介 4. 株式会社コプロシステム 代表取締役 金田 浩邦 5. 京西テクノス株式会社 取締役管理本部長 兼 KLES事業部長 安田 真人 6. 京西テクノス株式会社 代表取締役社長 臼井 努 7. 信越ポリマー株式会社 技術生産本部 マネジャー・ジャズ評論家 高木 信哉 8. 吉野化成株式会社 代表取締役社長 吉野 孝典 9. インテル株式会社 取締役 副社長兼執行役員兼技術開発・製造技術本部本部長 阿部 剛士 10. インテル株式会社 技術開発・製造技術本部アセンブリ技術開発部長 市川 公也 11. インテル株式会社 技術開発・製造技術本部テクノロジスト兼技術戦略担当部長 北野直樹 12. 株式会社コスモ計器 代表取締役社長 古瀬 智之 13. 翻訳家（技術系、国内観光、国際交流） 写真家（観光写真・人物写真）オノ・フィルバート 14. 株式会社 DMG フォース 代表取締役社長 塚田 佳満 15. ネットワーク多摩 中村 裕				
5. 評価	世界的な企業、多摩地域の独自の知見を持つ中小企業、日本の電気通信業界で長い経験を有し世界競争の中で成功例、失敗例、外国為替金融、通信販売業界など幅広い業態、経験や大企業から中小企業までたくさんの経験談が学生受講生に高く評価された。アンケート結果では、大変為になり今後の社会人生活に示唆になる、3年生の時に受講したかったなどの意見が過半であった。				
6. 執行体制	事務局				
7. 事業収支 (単位：円)		計画	実績	差異	備考
	収入	0	0	0	
	支出	25,000	20,188	△ 4,812	
	収支	△ 25,000	△ 20,188	4,812	

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成27年度 事業報告書

1. 事業計画名	第Ⅰ事業 大学間連携事業				
2. 事業名	全国大学コンソーシアムの展開				
3. 事業趣旨	全国大学コンソーシアム協議会の研究フォーラムに参加し、交流、情報交換、参考事例の収集を行い、本法人の周知と事業活動を紹介する。				
4. 事業内容・実績	◆全国大学コンソーシアム協議会への参加 - 平成27年5月23日 運営委員会（大学コンソーシアム京都） - 平成27年9月12日、13日（金沢工業大学） 第12回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム テーマ「大学に求められる役割と大学コンソーシアムの新たな展開 ～コミュニティ形成と地方創生時代における大学コンソーシアム～」 分科会1. 「地域創生における大学コンソーシアムの可能性を考えるワークショップ」 2. 「大学における『奨学生』の現状と将来の方向性について」 3. 「教育委員会と大学コンソーシアムとの連携」 4. 「地域における発達障害のある幼児への支援力向上のための佐賀県5大学 ・短期大学の連携と取組み」 5. 「自治体や地域と連携した留学生受入れ環境整備にむけて」 6. 「地域活性化や地域サービスの担い手となる人材育成」 研究フォーラムへは全国から310名、分科会へは137名が参加した。 ネットワーク多摩では、第2分科会を担当し、「多摩未来奨学金」の事例発表を行った。（参加者約20名） - 平成27年9月12日 総会（金沢工業大学） - 平成27年9月13日 運営委員会（金沢工業大学） - 平成28年2月20日 運営委員会（エリザベット大学）				
5. 評価	分科会での事例発表を行い、参加者の満足度は6分科会の中で一番高く、情報、意見交換はできたが、参加者が予想よりかなり少なく「奨学金」への意識の低さが伺えた。 今後も、更にネットワーク多摩の取組みを紹介して行きたい。 分科会参加者意見 「産官学連携を継続する努力、金融が奨学生プログラムに果たす役割が大であること」 「地域の特性に合わせた大学づくりが求められる。一方でグローバルとローカルの区別をどうつけるか、を考える必要がある」 「産官学だけでなく金融も重要。教職員側での継続性の困難さ。企業としての支出根拠は先行投資ができるかどうか。企業はどうしてもメリットを”すぐ”求めてしまう。それをいかにして提供していくか」 「企業側の話しがあったのはとても良く、1社当たりの負担軽減など要望が様々あることを感じた」				
6. 執行体制	全国大学コンソーシアム協議会幹事(小川会長)、運営委員（山根事務局長）、事務局				
7. 事業収支 (単位：円)		計画	実績	差異	備考
	収入	150,000	150,000	0	
	支出	301,000	413,020	112,020	
	収支	△ 151,000	△ 263,020	△ 112,020	

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成27年度 事業報告書

1. 事業計画名	第Ⅰ事業 大学間連携事業				
2. 事業名	多摩未来創造フォーラム (第6回多摩地域大学理事長・学長会議)				
3. 事業趣旨	経緯として第6回目の開催となる「多摩地域の理事長・学長会議」は、名称を「多摩未来創造フォーラム」として前面に打ち出し、統一テーマを「グローバル時代における多摩地域の将来」として開催する。それは、多摩地域に根付く産業・教育機関が一体となって、グローバルな視点から多摩地域の将来を考えるということであり、基調講演の演目である「大学と地方創生」ともあいまって、多摩地域に集積された知を最大限に活用して、多摩の今後の方向を探る機会とするものである。				
4. 事業内容・実績	◆会議名 多摩未来創造フォーラム（～グローバル時代における多摩地域の将来～） ◆開催日 平成27年10月24日（土） 13:00～19:00（明星大学日野キャンパス） <全体会> 小川哲生氏(ネットワーク多摩会長)主催者挨拶、大橋有弘氏(明星大学学長)会場校挨拶 ◆基調講演 前川喜平氏(文部科学審議官)「大学と地方創生」 <分科会> ・第1分科会「多摩地域の大学のグローバル戦略」 栗田充治氏(亜細亜大学学長)、前川喜平氏(文部科学審議官)、細野助博氏(中央大学教授)、馬場善久氏(創価大学学長)、村山正道氏(株式会社立飛ホールディングス社長) ・第2分科会「トップが望むキャリアデザイン」 福田喬氏(電気通信大学学長)、佐藤浩二氏(多摩信用金庫会長)、成瀬直人氏(株式会社いなげや社長)、臼井努氏(京西テクノス株式会社社長)、原田純子氏(株式会社メルヘン代表取締役社長)、堤香苗氏(株式会社キャリア・マム代表取締役) ・第3分科会「人口減少時代を乗り切る広域連携」 小川哲夫氏(明星学苑副理事長・ネットワーク多摩会長)、馬場弘融氏(政策スクール校長)、稲葉孝彦氏(小金井市市長)、清水庄平氏(立川市市長)、田辺隆一郎氏(八王子商工会議所会頭) <クロージングセッション>分科会コーディネーターによる報告 <懇親会> 【成果】参加数：31機関（加盟24、非加盟7）、参加者134名（登壇者含む、事務局を除く）、参加者アンケート回答：48人				
5. 評価	参加者は前回の44機関（240名）に対し31機関（134名）と減少した。次回開催時には広報の方法など改善を図っていきたい。 多摩地域の立場、23区との関係が再認識され、自大学の取り組みの比較や立川での企業戦略、人材育成の重要性に改めて参考になったとの意見が多くあった。基調講演の内容についてはグローバル化の制度と対応状況、地方創生の考え方、グローバル化の多様な意見、文科省の取り組みが理解できた様子であった。自治体、商工会、大学の視点の話がまとめて聞けることが興味深く、また、行政トップの率直な意見や話がとても参考になり、非常に楽しく有意義だったというアンケート状況であった。多摩地域の連携の必要性は誰もが認識しているが、こうした多方面の立場が交流する機会を作ることは、それぞれが単独では不可能なことであり、多摩の具体的な戦略を考え、現実界での交流が課題解決の糸口となるためにも継続が切望される。また、運営としては配布資料、会場問合せ、パソコン設置、壇上テーブル、マイク不足、プレゼン資料、誘導方法、連絡方法等に改善の余地が見られた。 アンケートでの察知メディア：知人(3)、ポスター(1)、チラシ(1)、ホームページ(2)、メルマガ(0)、大学内情報(12)、企業内情報(8)、関係者案内(14)、新聞(0)、その他(3)				
6. 執行体制	第6回多摩地域大学理事長・学長会議運営委員会（開催名：多摩未来創造フォーラム） 大学部会(36機関) および大学部会支援担当者 会場校：明星大学 日野キャンパス事務局、事務局				
7. 事業収支 (単位：円)		計画	実績	差異	備考
	収入	300,000	592,000	292,000	明星大学からの協賛金 300,000含む
	支出	960,000	1,032,480	72,480	
	収支	△ 660,000	△ 440,480	219,520	

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成27年度 事業報告書

1. 事業計画名	第Ⅱ事業 地域人材育成と教育力アップ事業				
2. 事業名	知のミュージアム 多摩・武蔵野検定				
3. 事業趣旨	多摩・武蔵野地域に長く受け継がれてきた事象や自然や文化、産業の発展経緯や魅力を知り、この地をさらに活性化させるための人材を醸成することを目的に始めて8年になる。Webによる検定試験から4年ぶりに会場試験に切り替えた。テキストだけでは学べない事柄をまち歩きでも学ぼうとガイドツアー「多摩めぐり30」（有料）などを随時開催している。				
4. 事業内容・実績	◆会場試験 平成28年3月12日(土)、明星大学23号館 ☆受検申込者239人 受検者196人＝内訳：1級5人・2級24人・3級142人・4級24人 (八王子市2人、立川市2人、調布市2人、小平市1人、日野市10人、東村山市1人、東大和市1人、西東京市5人)・Jr級1人(調布市) ☆合格者 62人＝合格率31.6%、級別＝1級40%、2級29.2%、3級22.5%、4級75% ◆ガイドツアー「多摩めぐり30」(1回1人1,000円) ・5月 1日(金) 青梅市霞地区の歴史と花を訪ねる 24人参加。ガイドはタマケン合格者・菊池正さん(青梅市)。 ・6月 6日(土) 東村山市北山公園の花菖蒲と多摩湖を観る 15人参加。ガイドはタマケン合格者・岡田耕輔さん、東村山観光ボランティアガイド推進委員長・渡辺潤さん。 ・7月 5日(日) 八王子市・高尾山のイワタバコを観る 18人参加。ガイドはタマケン合格者・関根充さん。 ・8月 7日(金) 稲城市伝統の蛇より行事を観る 16人参加。ガイドはタマケン合格者・須永俊夫さんと関根充さん。 ・9月12日(土) 西東京市 田無の成り立ちを探る 26人参加。ガイドはタマケン合格者・味藤圭司さんと阿部港さん、小幡宥さん。 ・10月3日(土) あきる野市伊奈石と五日市鉄道、医療、私擬憲法に触れる 21人参加。ガイドはタマケン合格者・菊池等さん、関根充さん、前田けい子さん。 ・11月15日(日) 武蔵村山市 村山党の里・天明打ち壊しの勃発地を歩く 19人参加。ガイドはタマケン合格者・菊池等さん、阿部港さん。 ・3月20日(日) 瑞穂町 カタクリと街道が伝える武人や庶民の願い観る ガイドはタマケン合格者・菊池等さんと永江幸江さん。瑞穂町郷土資料館学芸員・滝澤福一さんが解説講和。38人参加。 ◆青梅ミュージアム協議会主催の秋 11月7日と春 3月19日の「御岳溪谷アカデミーハイク」(有料)参加者の引率・ガイド。タマケン合格者各5人を派遣。 ◆東京にしがわ大学授業 2月11日 建国記念の日に寄せて～武蔵国の建国と国府・国衙跡を見る府中市。タマケン合格者・関根充さん派遣。 ◆明星大学「夏休み科学体験教室」 7月26日、23号館。多摩地域の写真と模擬問題で地域の様子を伝えた。 ◆事務局支援組織「タマケン・サポーターズ」誕生 7月6日設立。合格者・菊池等さん代表(13人)が「多摩めぐり」企画立案・実行を中心に活動。				
5. 評価	今年度から、WEB検定から会場検定に変更。 受検者については、前年度申込者74名(受検者63名)合格者31名から申込者238名(受検者196名)合格者62名と大幅に増加した。しかし、当初目標としていた受検申込者500名には届かなかった。受検者への結果通知は5月半ばに郵送する。 団体受検が6団体と少なく、次年度は地域企業に対する広報を徹底する必要がある。 サポーターズが生まれたことで、メンバーの意欲が高く「多摩めぐり」の内容などは、さらに充実。会場試験の試験官も務めた。 公式テキストの残部がなく、早急に実行委員会、学術委員会を中心に対応する必要あり。				
6. 執行体制	実行委員会、学術委員会、後援：東京都・多摩地域30市町村後援、事務局				
7. 事業収支 (単位：円)		計画	実績	差異	備考
	収入	296,000	801,724	505,724	
	支出	410,000	636,631	226,631	
	収支	△ 114,000	165,093	279,093	

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成27年度 事業報告書

1. 事業計画名	第Ⅱ事業 地域人材育成と教育力アップ事業				
2. 事業名	多摩地域行政連携事業「政策スクール2015」				
3. 事業趣旨	行政の若手職員を中心とした研修を目的に、行政活動に関心を持つ学生の自由な発想で行政職員と意見を交わして多摩地域の活性化につなげる政策提言を行う。				
4. 事業内容・実績	◆政策スクール テーマ：「多摩から地域創生～観光・交通・ライフスタイルを考える」 ・実施日：平成27年11月24日（火） ・開催場所：府中市の東京市町村職員研修所 ・ワークショップ ①多摩地域の観光から食を考える ファシリテーター：たましん価値創造事業部部長・長島剛さん。市職員3人、学生3人。 多摩地域の特産品を扱うアンテナショップを各市町村が持ち回りで展開することを提言した。 ②多摩地域のモビリティを考える ファシリテーター：中央大学大学院教授・細野助博 ネットワーク多摩専務理事。市職員、学生各2人。 新しい地域社会の芽生えになる「動く社交場」としてミニバスを捕らえた斬新な提言がなされた。 ③多摩地域で生活し、子育てとキャリアを積む ファシリテーター：首都大学東京准教授・朝日ちさとさん。市職員3人、学生5人。2グループに分けた。 キャリアも積める住民・行政・企業が「包括協定」を結ぶことで子育て支援を要請した。 いずれのワークショップもファシリテーターから出された事前課題に取り組んで臨んだ。 行政職員10人と学生（創価大学、中央大学、杏林大学）8人が話し合って提言をまとめ、発表した。約50人が聴講した。 ◆多摩の学生まちづくりコンペティション2015への審査員派遣 予選審査会（11月14日、実践女子大学）の審査委員として各市から1人の課長級を選任した。				
5. 評価	前期にネットワーク多摩が委嘱した「政策スクール校長」の馬場弘融さん（前日野市長）が全体を講評して、「過去2回の政策スクールに比べて、かなりレベルアップしてきた。どの報告も具体的で、かつ個別的な議論、そして、提言ができた。どれも個性があつて、聞いていて楽しかった。かゆいところにやや手が届いた議論と提言ができた」と評価。また「同じような議論をしている東京市長会や東京市町村自治調査会などとも連携できたら、もっとユニークな展開になるだろう」とも課題を話された。 昨年度までのワークショップの時間が短いという課題を、基調講演の時間をワークショップの時間に充てたことにより議論の時間が十分取れた。その反面、基調講演を取りやめたことにより、全体の参加者が前年100名を超えていたのに対し、今年度は50名程度になった。				
6. 執行体制	後援：東京市町村自治調査会、行政部会、事務局				
7. 事業収支 （単位：円）		計画	実績	差異	備考
	収入	70,000	58,000	△ 12,000	
	支出	400,000	145,013	△ 254,987	
	収支	△ 330,000	△ 87,013	242,987	

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成27年度 事業報告書

1. 事業計画名	第Ⅱ事業 地域人材育成と教育力アップ事業				
2. 事業名	新任大学教員研修				
3. 事業趣旨	各大学では、それぞれの実情に応じて、様々なタイプの新任教員研修が実施されているが、実際に行われている授業の教育内容まで踏み込んだ研修を実施している大学は希であるように思われる。ユニバーサル・アクセスの時代を迎えた現在の大学には、入学者選抜方法の多様化による平均的学生の学力と学習意欲の低下、学習に集中できない学生の増加、就職活動の長期化に伴う実質的な学習時間の減少、卒業生の資質に対する社会的要素の高まり、長期不況化の就職難による学生の目的喪失など、シラバスの作成や実際の授業実施に際して考慮すべき多くの困難が介在している。大学教員は毎日の授業の中で、恐らく20年前の教員なら予想することも出来ないような事態に直面し当惑しているといえる。これらの問題に少しでも解決を見出す研修事業である。				
4. 事業内容・実績	◆新任教員研修セミナー 実施日：平成27年8月29日（土）～31日（月） 場 所：大学セミナーハウス SPAプログラム：「教える教育」から「支援する「教育」へ （一社）まなび創造アカデミー 代表理事 鎌田 学氏 講演①：「学術の創造、継承そして公共性を担う大学」～大学の多様性とアイデンティティ～ 東京理科大学科学教育研究科教授 北原和夫氏 《私の授業》 講演②：「学生参加型授業の実践」～多様性が活きる学びを目指して～ 明星大学人文学部教授 菊池滋夫氏 講演③：「大人数教室での効果的な授業運営方法」 桜美林大学リベラルアーツ学群教授 荒木晶子氏 グループ討論：「問題意識の共有と授業改善」 コーディネーター 電気通信大学情報理工学部教授 史 傑氏 シンポジウム：「現代大学教育論」 1. 学生の参加を引き出す学習環境構築の取り組み 桜美林大学ビジネスマネジメント学群講師 有賀清一氏 2. 学習支援に果たす図書館の役割 一橋大学特任教授・前附属図書館館長 江夏由樹氏 3. 困難を抱える学生理解のために ―いま、私たちにできること― 明星学苑法人本部企画部課長 村山光子氏 参加者：18大学26名（男16名、女10名）				
5. 評価	各大学の新任教員の方が、日々の授業で感じている問題点や、それらに対する授業内での解決方法や工夫などが共有できた。 大学における様々な教育実践の形を学ぶことができた。特に学生への学習指導の新しい取り組み、及び「従来型」の大学教育の課題と利点について考える機会となった。				
6. 執行体制	主催：公益財団法人大学セミナーハウス 共催：ネットワーク多摩				
7. 事業収支 （単位：円）		計画	実績	差異	備考
	収入	0	0	0	
	支出	0	0	0	
	収支	0	0	0	

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成２７年度 事業報告書

１．事業計画名	第Ⅲ事業 国際交流				
２．事業名	キャンパスTAMAプロジェクト				
３．事業趣旨	各加盟大学では、グローバル化対応、少子化対応などのテーマから、それぞれ留学生を入学させるための施策を実施している。これら大学の共通施策として、各大学が連携し、留学生にとって魅力ある大学の在り方を探る。				
４．事業内容・実績	国際化委員会の設立が決定。 委員会メンバーに有識者にも参加いただくべく、各方面へのヒアリングを実施。 また、現状把握のため、加盟大学をはじめ、全国主要大学の留学生受け入れ状況を調査。大学によりバラつきがある実態が浮き彫りになる。 今後、日本語学校等との情報交換も実施し、多摩地域での留学生増加を図り、「眠らない街 多摩」の実現を目指す。 平成２７年５月２２日（金） ・常任幹事会にてアンケートの進捗状況の報告 平成２７年８月２１日（金） ・常任幹事会にて多摩国際村構想（案）のもと、各活動における現状課題と解決案の策定のため、①留学生の確保、②国際学生村の確保、③「職」の紹介を検討することとし、それぞれの検討事項を整理するとともに、多摩地域の大学を中心に留学生受入状況を調査実施報告。				
５．評価	各方面へのヒアリングにより、複数の課題があることがわかった。 留学生のための宿舎整備、留学生のアルバイト先、日本国内での就職企業の開拓について、先行して調査していたが、留学生確保の部分でも解決すべきことがあることが分かったため、留学生の入学から就職まで、一貫した支援ができるよう、システムを構築することとした。				
６．執行体制	事務局				
７．事業収支 （単位：円）		計画	実績	差異	備考
	収入	0	0	0	
	支出	0	0	0	
	収支	0	0	0	

平成 27 年度 補助金・委託金事業報告

単位 円

事業名	助成または委託先	金額
就職支援事業 (インターンシップ支援)	亜細亜大学	2, 937, 600
就職支援事業 (インターンシップ支援)	嘉悦大学	324, 000
就職支援事業 (実証的調査業務)	(株)立飛ホールディングス	6, 480, 000
就職支援事業 (就職ナビサイト支援)	(株)さんぼう	1, 512, 000
多摩未来奨学金	日本私立学校振興・共済事業団	1, 500, 000
合計	5 件	12, 753, 600

平成 27 年度 事業別予算と決算の対比表

第Ⅰ事業（大学間連携事業）

単位 円

予算額	決算額	執行率
25, 374, 000	19, 173, 800	75.6%

第Ⅱ事業（地域の人材育成と教育力の向上・調査研究事業）

予算額	決算額	執行率
810, 000	731, 644	90.3%

第Ⅴ事業（共通）

予算額	決算額	執行率
6, 074, 000	5, 264, 666	86.7%

<事業費総額>

予算額	決算額	執行率
32, 258, 000	25, 170, 110	78.0%

第Ⅰ事業については、多摩未来奨学金の学生への奨学金支給を今年度より分割支給としたため、予算執行率が低くなっている。